

## 銘柄選択レポートの資料作成法

山澤成康

### (1) データの入手

ヤフーファイナンスの表をコピーして、エクセルに貼り付ける。

このデータを使って、グラフや表を作る。

2社必要。

データは以下のサイトを使う。

Yahoo! ファイナンス→企業名で検索→**企業情報**→連結決算推移

花王

	前期	2期前	3期前
決算期	2013年12月期	2012年12月期	2012年3月期
会計方式	日本方式	日本方式	日本方式
決算発表日	2014年2月4日	2013年2月5日	2012年4月24日
決算月数	12か月	9か月	12か月
売上高	1,315,217百万円	1,012,595百万円	1,216,095百万円
営業利益	124,656百万円	101,567百万円	108,590百万円
経常利益	128,053百万円	104,214百万円	110,026百万円
当期利益	64,764百万円	52,765百万円	52,434百万円
EPS(一株当たり利益)	126.03円	101.12円	100.46円
調整一株当たり利益	125.89円	101.08円	100.43円
BPS(一株当たり純資産)	1,227.54円	1,116.61円	1,031.08円
総資産	1,133,276百万円	1,030,347百万円	991,272百万円
自己資本	628,710百万円	582,699百万円	538,030百万円
資本金	85,424百万円	85,424百万円	85,424百万円
有利子負債	101,381百万円	103,188百万円	102,113百万円
自己資本比率	55.5%	56.6%	54.3%

ROA(総資産利益率)	5.99%	---	5.21%
ROE(自己資本利益率)	10.69%	---	9.83%
総資産経常利益率	11.84%	---	10.93%

### (2) エクセル上での下準備

表をコピーして、エクセルに貼り付ける。

貼り付けた表について、次の加工をしてグラフを作りやすくする。

①表にある百万円をすべて除くには、「百万円」を「ブランク」に置換する。

②セルが連結されているところがある場合は、セルの連結を解除する。

全体を選択(表の左上をクリック) →セルの書式設定→配置→「セルを連結する」のチェックをはずす

③列の順番を入れ替える→各企業で古いデータが左に来るようにする

列単位で、「切り取り→切り取ったセルの挿入」を繰り返す。

### (3) 財務健全性について

最新期の総資産、株主資本、資本金、有利子負債、株主資本比率を表にする。

	花王	資生堂
	2013年12月期	2014年3月期
総資産	1,133,276	801,346
自己資本	628,710	338,562
資本金	85,424	64,506
有利子負債	101,381	152,367
自己資本比率	55.50%	42.20%

### (4) 売上高比較

ヤフー！ファイナンスからコピーしたデータで次の表を作る。

売上高の比較(単位100万円)

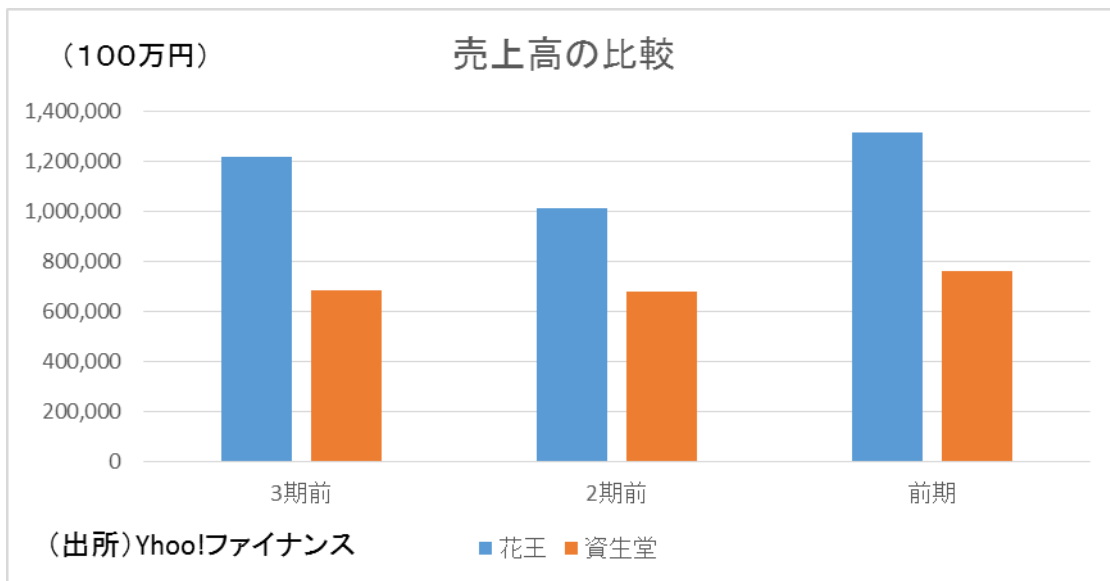
	3期前	2期前	前期
花王	1,216,095	1,012,595	1,315,217
資生堂	682,385	677,727	762,047
決算期(花王)	2012年3月期	2012年12月期	2013年12月期
決算期(資生堂)	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期

2社の決算期が違う場合、自分が選ぶ方の企業の決算期でグラフを作る。もう一つのほうは注に書き込む。

たとえば、A社(決算期3月)とB社(決算期9月)の株を比較してA社を選ぶ場合、グラフには3月期としてグラフを作り、

(注)ただし、B社の決算期は9月と注を入れる。

表を使ってグラフを作る。



・タイトル、単位、出所を明らかにする。

(5) 業績の比較

同じくヤフー!ファイナンスの表を加工して、次のような表を作る。

「百万円」は空白と置換して除く。

・グラフを描く際は、左上のセルを空白にすることを忘れずに!

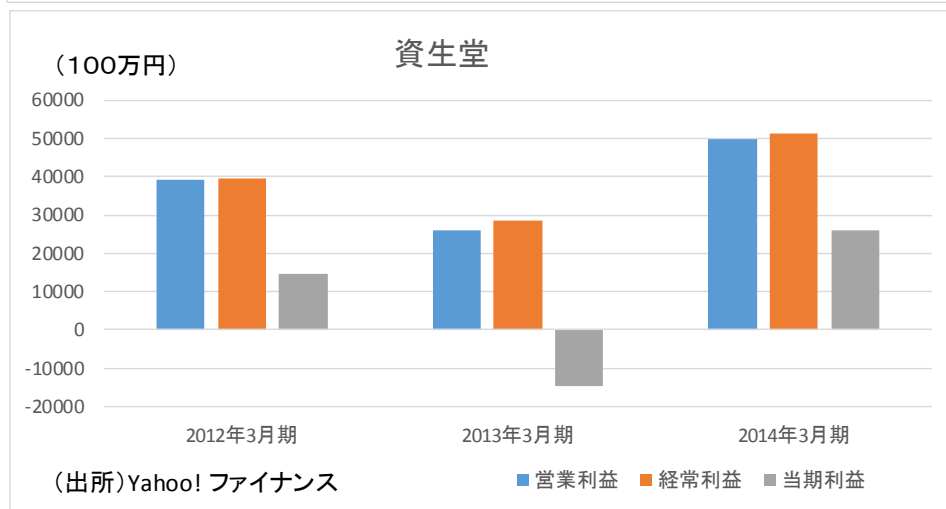
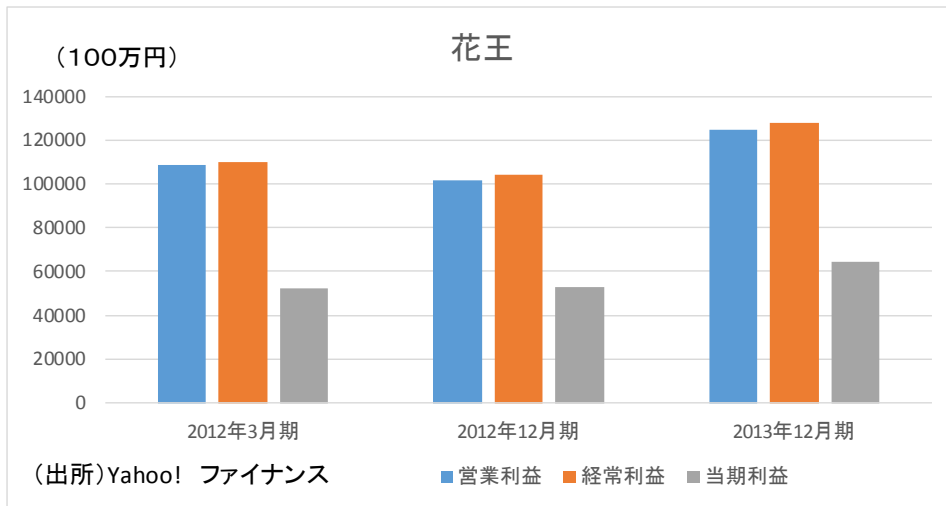
花王

	2012年3月期	2012年12月期	2013年12月期
営業利益	108590	101567	124656
経常利益	110026	104214	128053
当期利益	52434	52765	64764

資生堂

	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期
営業利益	39135	26045	49644
経常利益	39442	28406	51426
当期利益	14515	-14685	26149

表から、グラフを2つ作る。



(6) 株価指標からの分析

株価指標からの分析 (20074.15)

	PER	PBR	ROE	ROA
花王	27.65倍	3.26倍	10.69%	5.99%
資生堂	18.07倍	2.18倍	8.35%	3.45%

企業検索→ [詳細情報](#)

PER (株価収益率)

PBR (純資産倍率)

最初の表。

ROE (株主資本利益率)

ROA (総資産利益率)

(7) チャート

3 ヶ月、1 年、5 年の 3 種類を 2 つの企業について。計 6 種類

(例)

花王・1 年



チャートを 3 枚分 1 ページに載せるには、グラフをそれぞれ小さくする必要がある。

(レポート例)

## 私の推薦銘柄花王（4452）－資生堂（4911）と比較して

マネジメント学部 016258 山澤成康

### はじめに

私は、投資する銘柄として花王を選んだ。花王の製品をよく使っていたため興味がわいた。比較する銘柄として、同じ化粧品メーカーの資生堂を選んだ。

#### (1) 会社概要

花王は、トイレタリー首位、化粧品大手。ヘアカラー「ブローネ」、ヘアケア製品である「エッセンシャル」のほか、「健康エコナ」など食用油も手がける。花王の社長は、尾崎元規氏で、1972年慶応大学工学部卒業で2004年に社長に就任。長崎県出身。55歳。

資生堂は、化粧品国内首位、世界4位級。グローバルなブランド戦略を展開。トイレタリー分野は分社化している。資生堂の社長は、池田守男氏で、1936年生まれ、1961年東京神学大学神学部卒業で、2001年に代表取締役CEOに就任。趣味は、山野草の栽培やヨットである。

#### (2) 財務健全性について

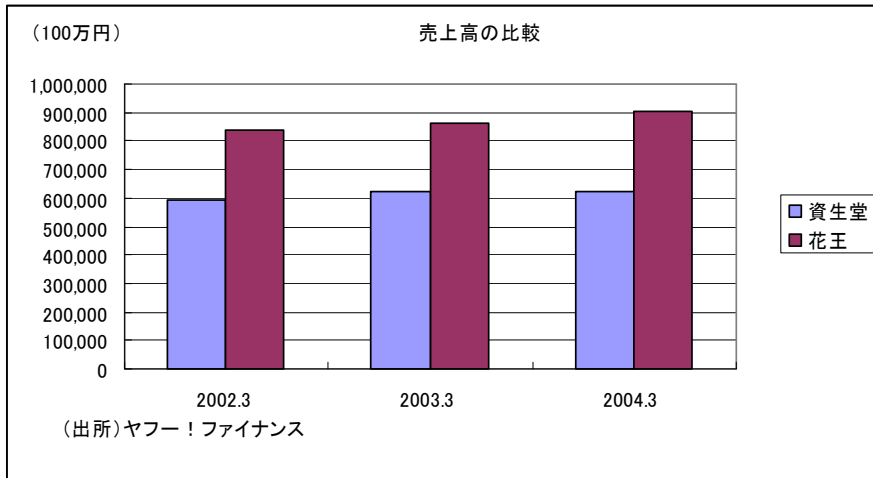
両社とも、株主資本比率（自己資本比率）は50%を超えており、安定性は高い。総資産に比した有利子負債の割合も小さく、健全性は高い。

財務健全性について(単位:10億円)

2004.3	花王	資生堂
総資産	724	627
株主資本	428	375
資本金	85	65
有利子負債	50	66
株主資本比率	59.10%	59.80%

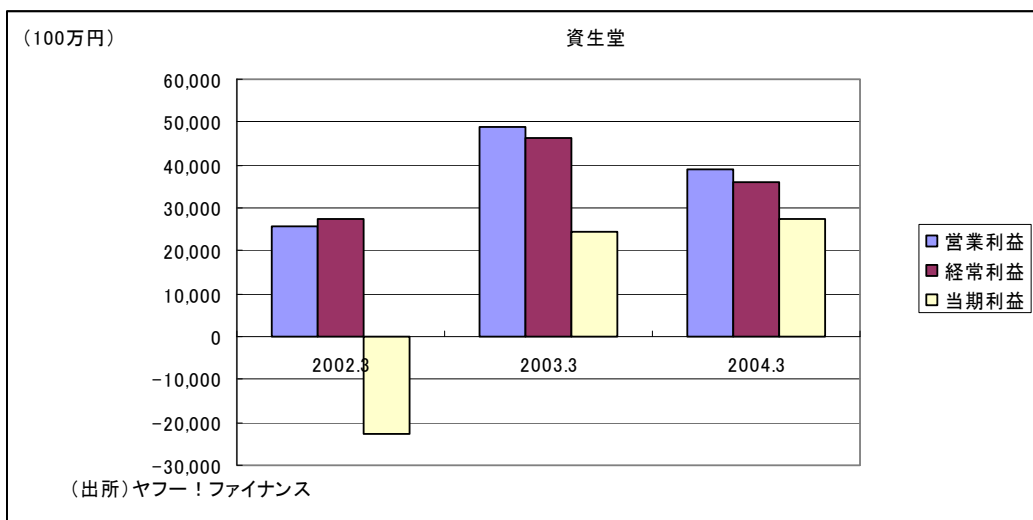
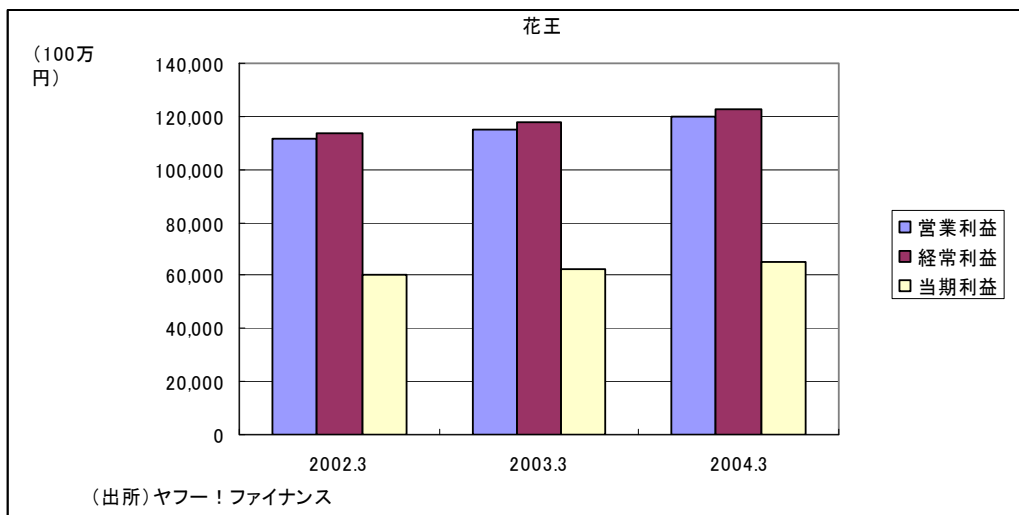
#### (3) 売上高比較

花王、資生堂とも、売上高は増えており、販売は好調だ。規模の面からは、花王がし資生堂の約1.5倍の大きさである。



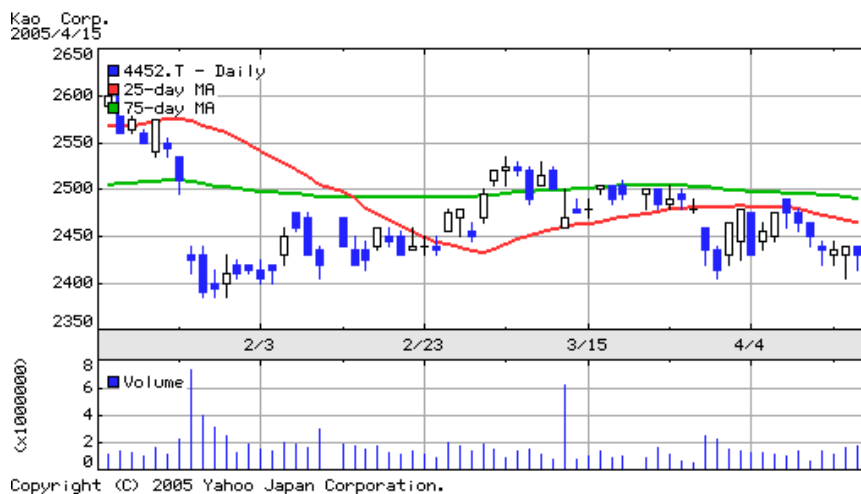
(4) 利益の比較

花王の2004年3月期は当期利益が約600億円であるが、資生堂は約250億円であり、収益力は花王の方が高そうだ。

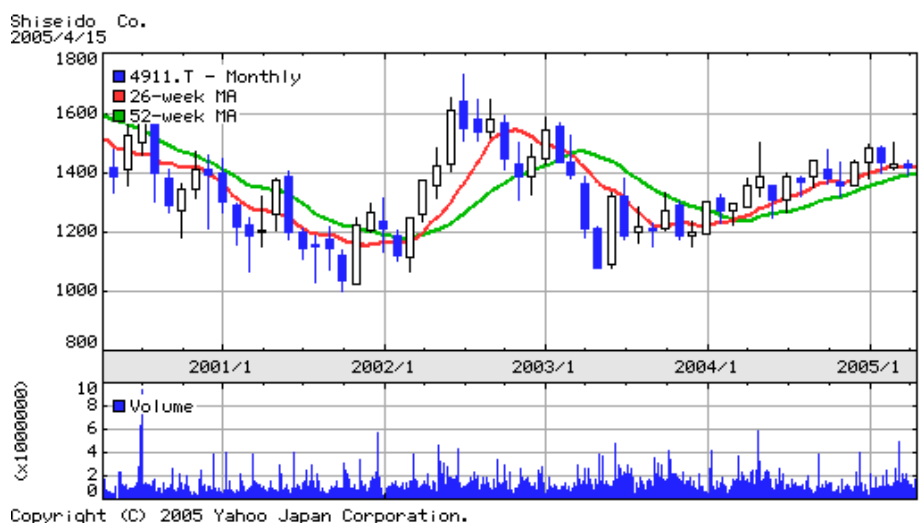




花王 3ヵ月、1年、5年チャート



資生堂 3 ヵ月、1 年、5 年チャート



## (5) 株価指標からの分析

### 株価指標からの分析 (2005.4.15)

	予想 P E R	P B R	R O E	R O A
花王	18.61	2.99	15.47	9.05
資生堂	-41.69	1.53	7.57	4.27

花王の単元株数は、1000株で、約240万円ないと、株は変えない(2005年4月22日現在)。配当利回りは1.33%で、株主優待はない。一方資生堂の単元株数も1000株で、約140万円から投資できる(同上)。配当利回り1.61%で、株主優待として、1,000株以上取得すると、資生堂製品のセットがもらえる。

株価が利益に対して割安かどうかをみるP E Rを見ると、花王の予想株価収益率(P E R)が18.61に対し、資生堂は-41.69となっている。これは2005年3月期決算が赤字になることを示しており、資生堂の収益性には問題がある。

純資産倍率(P B R)で割高か割安かをみると、花王は2.99と資生堂の1.53より割高となっている。一方、R O EやR O Aの水準は資生堂よりも高い。

P E RやP B Rは資生堂の方が割安であることを示しているが、資生堂が赤字の予想であることや、花王の収益力の高さは、今後株価に反映される可能性が高いため、花王を選ぶほうがよいと考えられる。

## (6) チャートからの分析

3ヵ月チャートをみると、両企業とも低下している。特に資生堂は大きく下がっている。

5年間のチャートをみても、花王は大きな流れとしては低下傾向にある。一方資生堂は、2003年を底に上昇傾向にある。

## (7) おわりに

花王と資生堂を比較して、花王が投資対象として妥当だという結論に達した。両社とも自己資本比率は高く安全性の面では問題ない。生活必需品を扱っており、景気にあまり左右されないことも、安全性につながる。

収益力の面では、花王の方が優れている。資生堂の2005年3月期は赤字になる予定だが、花王のR O Eは15.47%と高い。

株価は長期的に、低下しているが、今後収益力が上がれば、株価も上昇に転ずると考えら得る。